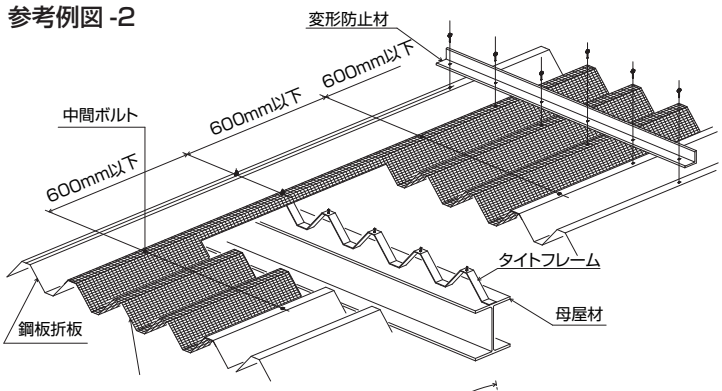
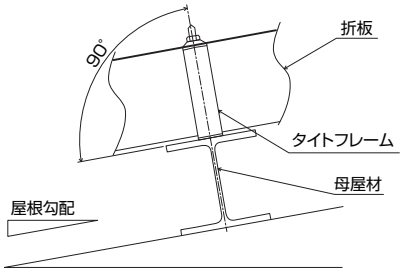
FRP折板 重ねタイプ

FRP折板【ハイブリッドV波】施工上の注意

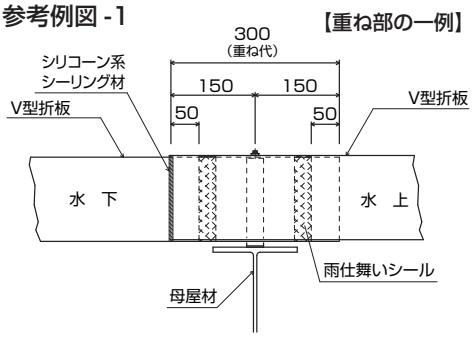
①タイトフレームの上に仮置きし、ボルト径より通常 2mm程度大きい穴をあけるようにしてください。
②重ね代は参考例図 -1 の様に流れ方向300mmとし、2ヶ所を雨仕舞いシールしてください。
③流れ方向の中間ボルトのピッチは600mm以下としてください。風の強い所や、積雪の多い所は、変形防止材を取り付けてください。
④軒先部に化粧フレームを取り付けない場合、軒先重ね部を径4~5のリベットまたはネジにて緊結の上、頭部をシーリングしてください。
⑤施工時 V 型折板の上に直接乗ると破損し墜落する恐れがあります。施工は足場を使用し安全対策を十分に行った上、施工ください。
注：折板の使用にあたり 4 枚重ねの施工は避けてください。
雨もりの恐れがあります。

参考例図 -2





参考例図 -1



推奨材質

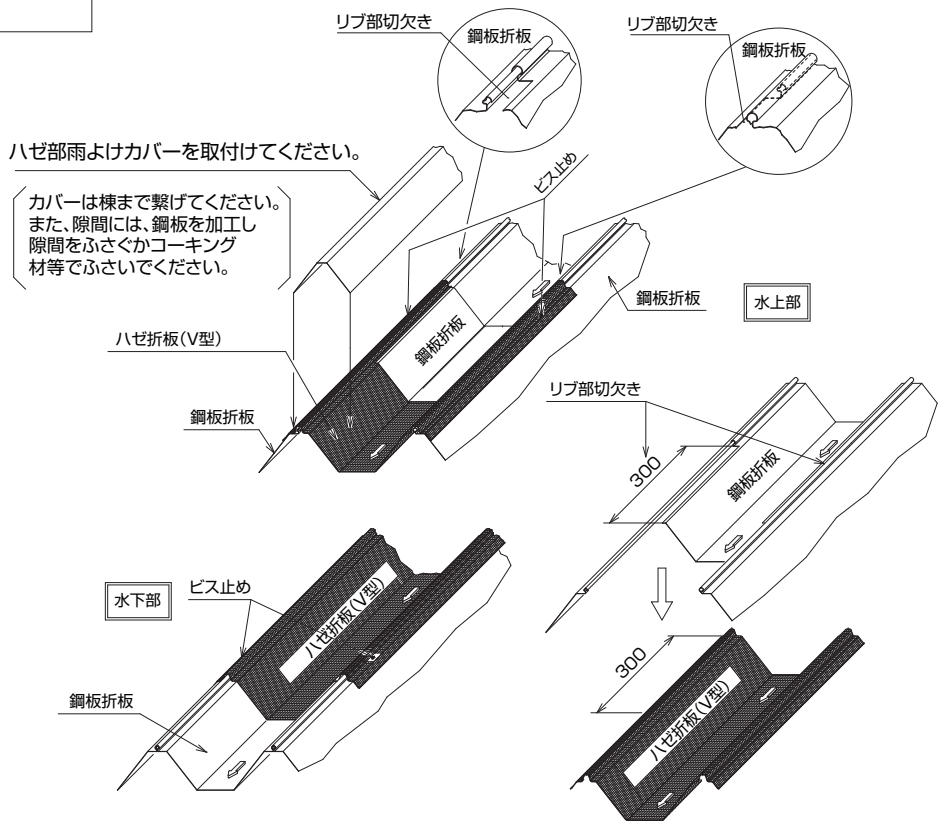
シール材	V型用 (FRP)	●ブチルゴム ●CR ●EPDM ●シリコーン系シーリング材

※ ラベルの貼付け面を太陽のあたる面にして施工してください(V型)

参考例図 -3

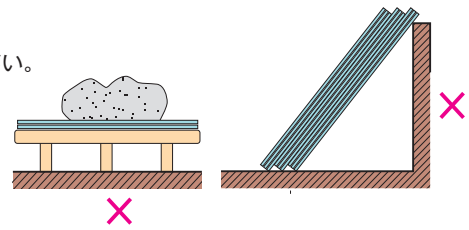
V型折板と鋼板折板のハゼ肩口(左右)にはシール材を施しビス等(500mm以内で)を使用して緊結してください。

※ 水上部は、鋼板折板のハゼ部分の切り欠きが生じますので、重なり部取り付けタイトフレームより水上側に適時タイトフレームを入れてください。(鋼板折板ハゼ強度低下の為)



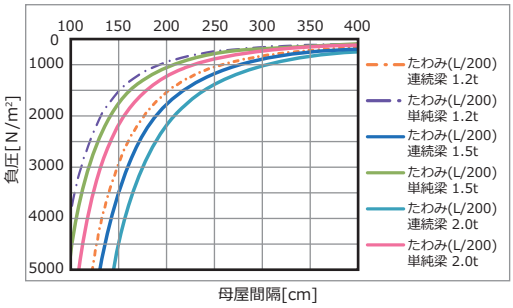
保管上の注意

①製品に人が乗ったり、物で打撃したりする危険な行為は避けてください。
②平坦な台やパレット上に水平に置き、上に重量物等傷が付く可能性があるものを載せないでください。
③直射日光、雨、40℃以上の高温多湿な環境を避け、風通しの良い屋内に保管してください。
④火気ならびに溶接作業周辺での保管は行わないでください。
⑤火に近づけないでください。
⑥一般家庭では燃やさないでください。

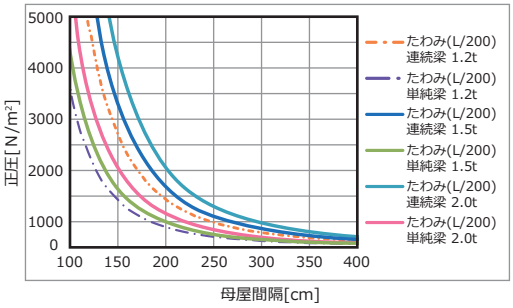


FRP折板【ハイブリッドV波】母屋間隔表 L(cm)

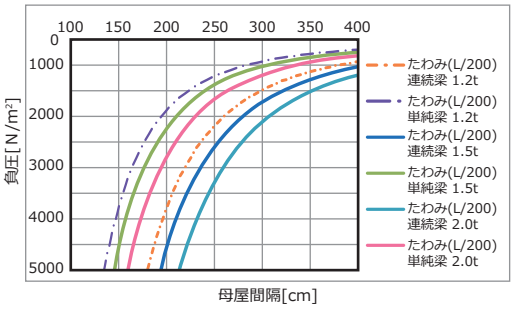
V600負圧



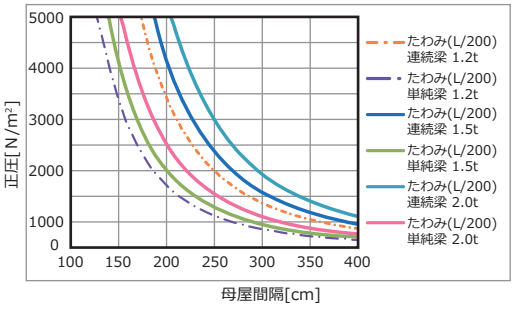
V600正圧



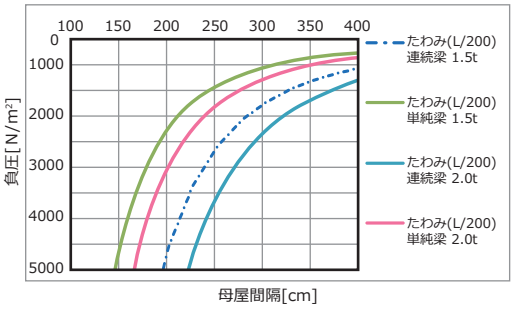
V500負圧



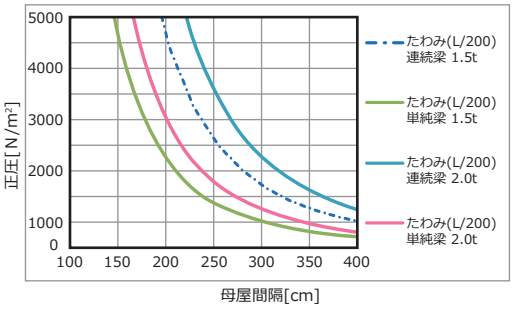
V500正圧



166ハゼ負圧



166ハゼ正圧



〈標準設計値〉

許容たわみ	ℓ/200

(注)グラフは許容母屋間隔(最大許容スパン)を決定する際の目安であり、保証値ではありません。
※ 軒先の長さは150mm 程度に抑えてください。

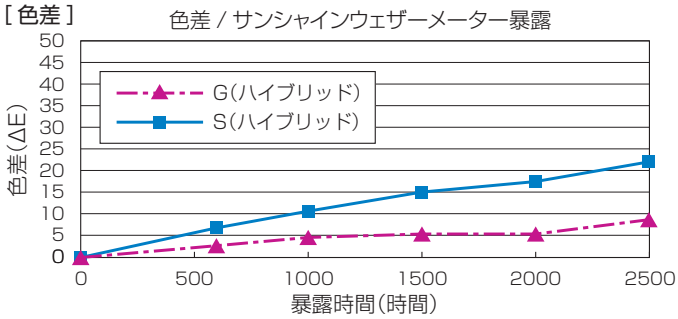
FRP折板【ハイブリッドV波】物性・色差・強度保持率

[物性]

素　材	FRP折板(Vシリーズ)	
	ガラス繊維強化プラスチック(不飽和ポリエステル樹脂)	
	Sタイプ(ハイブリッド)	Gタイプ(ハイブリッド)
比重	1.6	1.4
バーコル硬さ	FRP：HBI-A 40～50	
引張強さ	60～80MPa	
引張弾性率	6500～8000MPa	
曲げ強さ	160～180MPa	
曲げ弾性率	5500～7000MPa	
圧縮強さ	160～180MPa	
アイゾット衝撃強さ	35～45kJ/m²	
シャルピー衝撃強さ	45～55kJ/m²	
線膨張係数	2.5～3.5×10⁻⁵/℃	
全光線透過率	サンシャインウェザーメーター2000時間暴露後の変化	
	75%(初期82%)	83%(初期87%)
色差	ΔE=19	ΔE=5

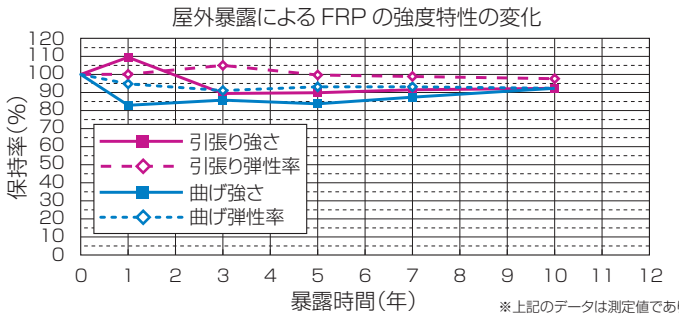
※上記のデータは測定値であり保証値ではありません。

[色差]



※上記のデータは測定値であり保証値ではありません。

[強度保持率(屋外暴露による)]



※上記のデータは測定値であり保証値ではありません。